

# 決勝は専大対決

## 菊池がV 安部健闘

### 女子団体は連覇逃す

全日本学生フェンシング選手権 11月16〜20日、京都府・大山崎町体育館

初日に行われた女子フルール個人決勝戦で菊池小巻(商2・翔陽高)と安部夏帆(商4・聖霊女子短大付高)の専大対決が実現。菊池が15-2で勝利し、関東学生選手権に続き、見事優勝を果たした。

2人は関東学生でも対戦。菊池は日々の練習で安部から技術指導を受けることも多いという。お互いに相手のプレーをよく知っており、「だからこそ簡単に勝てる相手ではないと思っていた」と菊池。大差をつけての勝利には「セット目で差を広げないと、集中が切れ、点を取られてしまうと思ったので、最初から全力を出していた」と

### 女子フルール個人



互いの健闘をたたえ、笑顔の菊池(右)と安部

### 男子5000メートル

## 土屋が国内最高記録

ワールドカップスビードスケート競技会 男子5000メートルのディジョンBに出場した土屋良輔(経営4・菊池女子短大付高)が、6分23秒99の国内最高記録(日本人選手)をマークし、優勝を手にした。

土屋は10月に行われた全日本距離別選手権の10000メートルで優勝したが、5000メートルではスケイティングのイメージと実際の動きが一致していなかったという。今回はイメージしていた「加速しすぎず、力まないスタートを切ることができ、思ったより楽に滑ることができた」と前回の修正に成功し、長所である持久力を生かし、世界の表彰台に上った。

長野大会の1000メートルディビジョンBでは近藤太郎(経営4・駒澤大附)が3位入賞。「自分らしいダイナミックな滑りができなかった」と話した。

(富樫幸恵・文2)

## 井出初の全国タイトル

全日本大学レスリング選手権 11月12、13日、愛媛県・宇和島市総合体育館

リースタイル8階級のトーナメント戦が行われ、井出光星(経済2・上田西高)が57kg級で初優勝。小学校からレスリングを始め、初の全国タイトルを手にした。

「相手をイメージしながら練習に取り組んできたことが結果につながった。持っているものを全て出せた」と井出。同じ階級に所属し、5月の全日本選抜選手権を制した中村倫也主将(商4・花咲徳栄高)はケガで欠場の



表彰台の中央に立ち、声援に応える土屋

## 安藤が準優勝 三部は3位

全日本学生選抜卓球選手権大会(個人の部) 11月26、27日、千葉県流山市・キッコーマンアリーナ

女子で安藤みなみ(商2・慶誠高)が準優勝、男子で三部航平(商1・青森山田高)が3位に入賞した。

専大からは男女合わせて7人が出場し、6人が予選リーグを突破、決勝トーナメントに進出した。

連覇の期待がかかった安藤は初戦で劣勢を挽回して4-3で勝利すると、続く準々決勝、準決勝は持ち前の力強いスマッシュで相手を寄せつけず勝ち上がった。

決勝の相手は山本怜選手(中央大)。「過去の対戦で負けており、研究して試合に臨んだ。ラリーに強く、しつこく返してくる」という分析通り、両者一歩も引かない打ち合いが続いた。第5セットで粘りを見せ、セットカウント2-1と迫ったが次のセットを落とし、2-4で敗れた。

「調子は良かったが、それ以上に相手が返してきた。自分の打ち損じが負けにつながった」と安藤。優勝こそ逃したが、今大会の経験はさらに一回り成長するための糧となる。

(富樫幸恵・文2)写真



安藤の強烈なスマッシュ＝トーナメント1回戦



花束を手にする田添＝ITTF提供

## 田添がV

U21男子単打 ITTFワールドツアー・スウェーデンオープン 11月15、20日、スウェーデン・ストックホルム

専大からは田添健汰(商3・希望が丘高)と及川瑞基(商1・青森山田高)の2人が出場。田添がU21男子シングルスで優勝した。

田添は直前のオーストラリアオープンでは決勝トーナメント2回戦で敗退しており、リベンジを果たした。「オーストラ

専大スポーツ

大会結果 予定は体育会ホームページ「専大ホームページ」からアクセスしてご確認ください。

専大スポーツ編集部 web(http://sensup.web.fc2.com) facebook(大会結果を配信)もあります。

No. 369